

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.129

(2016年6月刊行)

Empowerment through Enhancing Agency: Bridging Practice and Theory through Crystallizing Wisdom of a Third-Country Expert

Mine Sato

Research Project: [主体性醸成のプロセスと要因にかかる学際的研究：中南米における事例を中心に](#)

■付加価値

本稿はエンパワメント、学術的には、主体性醸成 (Agency Development) のプロセス・メカニズムおよびその促進要因について、開発実践と関連理論をつなげることにより仮説形成を行ったものである。このことによる付加価値は、以下の三点である。第一に、主体性醸成とエンパワメントという二つの学問領域の見解や研究アプローチの齟齬および共通点を整理し、理論上のブラックボックスを割り出している点である。第二に、二国間支援の枠組みでは捨象されがちな第三国専門家（事例では、日系ブラジル人専門家）の叡智に光を当て、その暗黙知を理論に結びつけていることである。第三に、事例を丁寧に分析し理論と結びつけ、理論上のブラックボックスに対して仮説モデルの形成を行うことで、「現場に役立つ研究」を実現していることである。

■リサーチ・デザイン

エンパワメント（主体性醸成）を後方支援するためのメカニズムおよび要因を明らかにするために、研究を三段階に分けて設計・実行した。第一段階としては、エンパワメントと主体性醸成にかかる諸理論を整理し、主体性醸成を4類型化し、理論上のブラックボックスを明示している。第二段階として、そのブラックボックスの内容を説明すると考えられる開発実践（パウロ・フレイレの意識化運動をベースにした、農民の自立と協働を促す研修プログラム）の展開過程を、中心人物であるノハラ・テツオ専門家の半生に遡り、丁寧なプロセスドキュメンテーションにより明らかにしている。第三段階として、事例分析を、関連理論と結びつけ、第一段階で割り出された4タイプのブラックボックスに当てはめることで、エンパワメントの段階的メカニズムおよびその促進要因を文脈的な要因を中心に割り出した。

■主な結論（政策的含意を含む）

分析の結果、以下の3つの結論が抽出された。第一に、エンパワメントプロセスを支える文脈的要因として、中心人物の経験知や人柄、ニカラグアの歴史や社会文化的特徴（社会主義運動や宗教の歴史的立場、および革命後の識字教育のあり方、村落における情報過疎、外部団体からの協力の取り付けの難易度など）が強く影響することである。第二に、「住民エンパワメントプロセス」に先立ち、ニカラグア人のカウンターパート（研修内容をノハラ専門家とともに開発）および住民リーダーが経験したエンパワメントプロセスがあったことである。そのメカニズムは、自己決定理論および物語化など社会コミュニケーションにかかる理論で説明できる。そして第三に、住民のエンパワメントのメカニズムである。本稿では、4つのPower（“Power from within”：自分を信じる力、“Power with”：協働する力、“Power to”：環境に働きかける力、そして“Power Over”：制度環境を変える力）に分け、その醸成のダイナミズムについて階層的な仮説モデルを提示している。